

JAAF
SAPPORO

一般財団法人札幌陸上競技協会



札幌陸協情報

発行：一般財団法人札幌陸上競技協会広報委員会

令和3年12月24日発行

2022年度を迎えるのに当たり

～ 昨年度に引き続きコロナ禍の大会を経験して ～

会長 志田 幸雄

2021年のシーズンも新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの大会が中止又は延期になる中、競技者、審判各位の皆様、多くの企業の方々のご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。このような情勢のもと、主催大会・主管25大会、学連大会4大会のうち、札幌選手権大会をはじめ12大会が中止、1大会が延期となりました。更に改修工事により厚別競技場、円山競技場の一般開放が長期間に渡り中止となり、競技者・指導者の皆様には、新たな目標設定のために大変ご苦勞をなされたことであつたと思ひます。限られた練習や競技会における環境状況の中でも「札幌から一人でも多くのオリンピック選手を育てる」を合言葉に、SAPPORO「2021選手育成基金」を設立し、継続した強化育成事業の取り組みを行ってきました。

この強化育成事業において蒔いた種が実を結び、当協会所属の男子走幅跳、城山正太郎選手（北海道ゼンリン）が8m40の日本新記録を生み出し、2020東京オリンピック代表選手として出場することができました。また、過去当協会に所属していた選手として、女子100mHの寺田明日香選手（ジャパングリエイト→北海道ハイテクAC出身）は、2020東京オリンピック代表選手として、日本勢として21年ぶりの準決勝進出を果たし、男子やり投げの小南拓人選手（染めQ→札幌第一高校出身）、男子100mと4×100mRの小池祐貴選手（住友電工→立命館慶祥高校出身）が2020東京オリンピック代表となり多くの選手が活躍されました。

全国規模の大会では、玉置菜々子選手（札幌啓成→国士館大）が日本学生個人選手権にて、女子100mHで大会新記録で優勝し、今度は、芝田愛花選手（恵庭南→環太平洋大）が日本学生対抗選手権にて、女子100mHで大会新記録で優勝を飾り、お互いに切磋琢磨して活躍しました。また、全国高校総体では、男子5000mでキンヤンジュイパトルリック選手（山の手高校）が大会新記録で第2位、全国中学では、男子400mでスコット リアム音央選手（札幌啓明中）が第2位となり、協会の歴史に新たな1ページに加えられた年になり大変うれしく思います。

本協会は、令和3年（2021年）11月28日に設立90周年事業の記念式典を開催いたしました。90周年を記念し、来年4月発刊を目指し、現在、新たな歴史において輝かしい記録を刻んだ、記念誌の編集作業を進めています。

本会においてこうした歴史と実績を礎として来る2024年のパリオリンピックに向けて、先達に続く、更なる選手の育成に努めるとともに、一般財団法人としての自覚と自負を持って、札幌市を中心として、北海道そして、全国における陸上競技の普及・発展に努めて参る所存であります。会員の皆様におかれましては、健康面と体調にご留意されながら協会運営にご協力ご支援賜りますようお願い申し上げます。

終わりとなりますが、当協会の運営に当たり、ご支援ご協力を頂いております多くのご協賛各社の皆様や関係機関の皆様方に心から感謝と敬意を表します。当協会が次の100年を迎えるステージに向けて、引き続き変わらぬご支援ご協力をお願い致します。

2021年度 事業中間報告

専務理事 金子博之

今年度も昨年度同様に新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、多くの大会が中止又は延期になるなか、競技者の皆様、札幌陸協会員の皆様、後援・協賛頂きました企業・団体のご協力に心より感謝いたします。

【財務状況】

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、多くの大会が中止となりました。その為、大会参加費及び補助金・助成金の収入が2021年度予算から大幅な減収となり大会運営経費・強化費等の事業費や管理費の支出減に努めていますが、財務的に厳しい状況が続いています。

【各大会開催事業】

今年度は札幌陸協主催・主管25大会、学連審判協力大会4大会のうち札幌陸上競技選手権大会をはじめ12大会が中止、1大会が延期となりました。

開催された大会も日本陸上競技連盟「陸上競技活動再開についてのガイダンス」本協会「競技会再開に向けた申し合わせ事項」等に基づき感染拡大防止の対策をとりながら実施しました。また、コロナ禍で、より重要性を増した医務員について、今年度も我汝会きたひろしま整形外科病院の原先生のご協力を得て、医師・看護師を派遣して頂きました。誠にありがとうございます。

【大会結果と強化事業】

今シーズンもコロナ禍や工事によって厚別公園競技場、円山競技場の一般開放が長期間中止になるなどしましたが、選手は各チーム指導者の指導のもと、新たな目標を定め、限られた練習・競技環境のなかで、最大限のパフォーマンスを見せてくれました。

東京オリンピックでは、本協会所属の城山正太郎選手（ゼンリン）が走幅跳に出場、健闘しました。また全国高校総体では、男子5000mでキンヤンジュイ パトリック選手（札幌山の手高校）が大会新記録で第2位となり、全国中学では、男子400mでスコット リアム音央選手（札幌啓明中）が第2位という活躍がありました。

強化事業は、コロナ禍の影響と財務状況悪化のため、縮小せざるを得なくなりました。

【選手強化育成基金】

2017年度から始まり昨年度終了した「SAPPORO選手強化育成基金」から東京オリンピックに出場し本協会関係の選手等に贈呈しました。

なお、今年度から新たに「さっぽろ選手強化育成基金」が設立されました。ご協力企業や本協会会員の皆様のご協力を得て、8月末現在36万円の基金増資を行うことができました。誠にありがとうございます。

【競技場整備】

厚別公園競技場では、暑さ対策として要望していたエアコンがアナウンス・大型映像操作室に設置されました。円山競技場は競技場2種検定の関係改修工事が4月から11月まで行われました。

【創立90周年事業】

記念式典を、11月28日（日）に開催しました。なお、祝賀会は中止といたしました。記念誌については、2021年度中の発行に向けて、編集作業を進めています。

【東京オリンピック マラソン・競歩関係】

多くの会員が猛暑の中、NT0（競技役員）、コラボレーター（競技ボランティア）として運営に携わりました。

今後、コロナ禍が続くことを念頭に本協会の事業の在り方等の検討を加えながら、2022年度に向け残りの2021年度の事業を進めていきます。何卒、よろしくお願い致します。

記録室 全国大会入賞者等



■ 第105回日本選手権 (大阪・ヤンマースタジアム長居 6/24~6/27)

- 男子走幅跳 第3位 7m90(+0.1)
城山正太郎 (ゼンリン)
- 女子100mH 第8位 13.59(0.0)
芝田 愛花 (環太平洋大)

■ 第32回東京オリンピック (東京・国立競技場 7/30~8/8)

- 男子走幅跳 予選第12位 7m70(+0.3)
城山正太郎 (ゼンリン)

■ 第48回全日本中学校選手権
(茨城・笠松運動公園 8/18~8/20)

- 男子400m 第2位 50.88
スコットリアム音央 (札幌啓明3)

■ 第74回インターハイ
(福井・県営陸上競技場 7/28~8/1)

- 男子5000m 第2位 13.35.57 (大会新)
K・パトリック (札幌山の手3)
- 女子七種競技 第5位 4823点
長田 裕香 (恵庭北3)

■ 2021日本学生個人選手権
(神奈川・レモンガスタジアム平塚 6/4~6/6)

- 女子100mH **優勝13.30(+1.4)** (大会新)
玉置菜々子 (国士館大3)
- 女子200m 第4位 11.92(+0.4)
臼井 文音 (立命館大3)

■ 第90回日本学生対抗選手権
(埼玉・熊谷スポーツ文化公園 9/17~9/19)

- 女子100mH **優勝13.23(+1.8)** (大会新)
芝田 愛花 (環太平洋大3)
- 女子100mH 第2位 13.26(+1.8)
玉置菜々子 (国士館大3)
- 女子100mH 第5位 13.38(+1.8)
村岡 柊有 (北海道教育大4)
- 女子200m 第8位 25.06(-0.9)
石堂 陽奈 (環太平洋大1)

■ 第69回全日本実業団対抗選手権
(大阪・ヤンマーフィールド長居 9/24~9/26)

- 男子走幅跳 第3位 7m64(+0.1)
城山正太郎 (ゼンリン)

■ 第37回全国小学生陸上競技交流大会
(神奈川・日産スタジアム 9/18~9/20)

- 5年男子100m 第2位 13.26(+0.8)
松田 大和 (ハイテクACA)
- 5年女子100m 第6位 14.43(-3.4)
山田 莉瑚 (AAA)

■ 第52回U16陸上競技大会
(愛媛・愛媛県総合運動公園 10/22~10/24)

- 男子ジャベリックスロー
第3位 63m97
中西 悠太 (札幌柏丘中)

第9回北海道ハイテクAC杯陸上競技選手権大会開催報告

第9回北海道ハイテクAC杯陸上競技選手権大会を2年振りに開催しました。

～ ご参加いただいた皆様、本大会ご協賛各社様、大会関係者様、心より感謝申し上げます。～

令和3年10月2日(土)に札幌市厚別公園競技場にて、新型コロナウイルス感染症拡大により一度延期となった大会は、2年ぶりに無事開催しました。今回は、感染症予防のため無観客で開催され、感染予防策の徹底が図られました。天候は、途中ゲリラ豪雨となり、競技は途中中断しましたが、今年度も小学生種目からマスタース種目までのカテゴリーによる大会を開催し、すべてのカテゴリーのアスリート育成に寄与する大会となりました。大会では、以下の選手が最優秀選手・優秀選手に選ばれました。おめでとうございます。大会を終了に際しまして、多くの皆様にご参加及び大会運営にご協力をいただき誠にありがとうございました。

○最優秀選手賞

(ハイテクAC杯)

小5男子100m 松田 大和 13.34 (+1.8) 北海道ハイテクACA

○優秀選手賞

(日刊スポーツ新聞社賞)

高校・一般男子800m 宮澤 朝凧 1:56.23 TONDEN.AC

(報知新聞社賞)

高校・一般男子110mH 高橋 佑輔 13.81 (+2.7) DouhokuAC

(読売新聞社賞)

高校・一般女子 100mH 村岡 終有 13.47 (+2.7) 北教大岩見沢

(北海道新聞社賞)

中学女子800m 斎藤 遥 2:21.13 札幌北中



(一般・高校男子100m A決勝)



(一般・高校女子100m A決勝)

一山麻緒が自己新で優勝 服部勇馬は安定したペースで24位 五輪マラソンテスト大会



◆陸上 札幌マラソンフェスティバル・ハーフマラソン（5日、大通り公園西四丁目スタート、東京五輪マラソン中間地点ゴール）

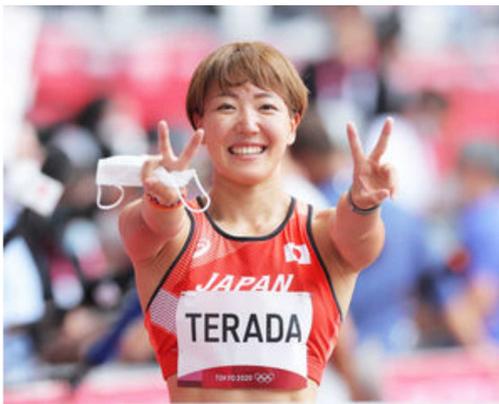
東京五輪男子マラソン代表の服部勇馬（トヨタ自動車）は1時間2分58秒の24位でフィニッシュした。優勝はキブコエチで1時間0分45秒、日本人トップは木村慎（ホンダ）で1時間1分45秒の3位だった。女子は東京五輪マラソン代表3選手が勢ぞろいし、一山麻緒（ワコール）が自己新記録の1時間8分28秒で優勝した（記録は全て速報値）。

服部はレースの流れに合わせて集団で展開し、中盤以降は自分のリズムで感触を確かめるようにコースを駆けつけた。すでに3日間かけて下見をしていたが、十二分すぎる慎重さをもって大一番への準備を進めている。

一山は代表の鈴木亜由子（日本郵政グループ）や補欠の松田瑞生（ダイハツ）らと集団を形成して進め、19キロ過ぎて抜け出した。松田の猛追もあったが、持ち前のスピードで逃げ切った。「ホッとしています。思ったよりも風が味方してくれた。走りやすかったです。自己ベストも出したし、勝負にも勝ちたいので、粘れて良かったです。まだ万全の状態ではないので、あと3か月で上げていって本番では元気な走りを見せたい」と話した。

（報知新聞社様ご提供 <https://hochi.news/articles/20210505-OHT1T50003.html>）

寺田明日香「かなり収穫」 金沢イボンヌ以来21年ぶり準決勝…五輪で12秒台も日本勢初の快挙



◆東京五輪 陸上女子100M障害予選（3日、国立競技場）

女子100メートル障害予選で、日本記録保持者の寺田明日香（ジャパングリエイト）は12秒95（追い風0・3メートル）の5組5着で1日の準決勝に進んだ。

31歳で初五輪。自称「オールドルーキー」の寺田が、大舞台で伸びやかにハードルをさばいた。強い追い風には恵まれなくても、自己記録まで0秒08差に迫る好タイム。タイム順上位で準決勝進出が決まった。同種目では、00年シドニー大会の金沢イボンヌさん以来、21年ぶり。五輪で12秒台を出すのも、日本勢初の快挙だ。「子どもの頃から見ていた夢の舞台。気持ちが乗りすぎるので、できるだけ冷静に、と思った。競った中でも、冷静に走れたのはかなり収穫だし、自己ベストに近づけたのも良かった」と汗をぬぐった。

前日本記録保持者の金沢さんが準決勝まで進み、歴史を作ったシドニー五輪。寺田にとっても、競技人生を左右する大会だった。女子マラソンでQちゃんこと高橋尚子さんが金メダル。心を動かされ、母にレプリカジャージをねだるほど。陸上選手を本格的に志す、出発点になった。「五輪は特別なので、ウキウキしすぎず、やることをやった。100メートルを、10台のハードルを並

べて走ることには変わりはない」と平常心を貫けたことも、今大会日本勢唯一の準決勝進出の原動力になった。

決勝進出へは、自身が持つ12秒87の日本記録を上回るタイムを出す必要がある。準決勝は、1日午後7時45分開始予定。「リミッターは外せそうですか？」の問いに「もうちょっとな気がする〜」。屈託無く笑った寺田が、大仕事に挑む。

(報知新聞社様ご提供 <https://hochi.news/articles/20210731-OHT1T51072.html?page=1>)

ラストレースの五輪マラソンで6位の大迫傑 2時間10分41秒は日本勢五輪最速タイム



◆東京五輪 男子マラソン（8日・札幌市）

世界記録（2時間1分39秒）保持者で、非公認では1時間59分40秒を記録したエリウド・キプチョゲ（ケニア）が2時間8分38秒で圧勝した。衰え知らずの36歳が前回の2016年リオ五輪に続き、金メダルを獲得した。

アブディ・ナゲーエ（オランダ）が2時間9分58秒で銀メダル。バシル・アブディ（ベルギー）が2時間10分0秒で銅メダルを獲得した。

今大会をラストレースと表明した大迫傑（ナイキ）が2時間10分41秒で6位だった。

中村匠吾（富士通）は約3・5キロで先頭集団から遅れ、2時間22分23秒で62位。服部勇馬（トヨタ自動車）は20キロ過ぎに先頭集団から遅れ始めた後、大幅にペースダウンし、2時間30分8秒の73位でゴールにたどり着いた。

大迫が記録した2時間10分41秒は、条件が全く異なるものの、過去の五輪で日本代表が記録したタイムで最も速い。

これまでの最速は1984年ロス五輪4位の宗猛で2時間10分55秒。次いで1998年ソウル五輪4位の中山竹通で2時間11分05秒。

日本代表として1936年のベルリン五輪に出場し、金メダルを獲得した孫基禎さん、銅メダルを獲得した南昇竜さんを含め、1964年東京五輪銅メダルの円谷幸吉さん、1968年メキシコ市五輪銀メダルの君原健二さん、1992年バルセロナ五輪銀メダルの森下広一さんらメダリストをはじめ、順位では大迫以上の成績を残した選手が多くいるが、タイムでは大迫が最速。ラストレースで大迫傑が、ひとつの伝説を残した。

(報知新聞社様ご提供 <https://hochi.news/articles/20210808-OHT1T51229.html?page=1>)

創立90周年記念式典開催される

～ 令和3年(2021年)11月28日 札幌ガーデンパレスにて ～

当協会は、昨年創立90周年記念を迎えましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い記念式典開催を延期したため、今年度ようやく多くの皆様のご臨席により、記念式典を開催することができました。

記念式典では、当協会に永年にわたりご支援いただいた団体に対して、当協会志田幸雄会長から、感謝状が贈呈されました。また、特別賞として品田吉博名誉会長以下8名、特別指導者賞として、五輪代表選手を育成されました中村宏之氏、広川龍太郎氏、大町和敏氏、日裏徹也氏の4氏に対して、それぞれ賞を贈呈いたしました。今後とも来るべき創立100周年を見据え、一層の普及・強化活動、指導者の育成等、陸上競技を通じて、生涯スポーツとして寄与していく所存です。今後とも、変わらずご支援・ご協力を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。



〔志田幸雄会長 (札幌陸協) 挨拶〕



〔生島典明会長 (札幌市スポーツ協会) ご祝辞〕



〔丸昇会長 (北海道陸協) ご祝辞〕



〔感謝状贈呈〕



〔特別指導者賞表彰〕



〔式典様子〕



訃 報

この度、当協会にご功績のあった方々のご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

参 与 者	楯 石 英 雄 様	(8 4 歳)	5 月 6 日	御 逝 去
元 参 与 者	木 原 勤 様	(9 1 歳)	5 月 2 7 日	御 逝 去
参 与 者	薄 昇 様	(8 8 歳)	6 月 2 0 日	御 逝 去
審 判 員	今 渡 基 成 様	(5 2 歳)	1 1 月 5 日	御 逝 去

発行 一般財団法人札幌陸上競技協会
広 報 委 員 会

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1番5号
札幌市中島体育センター内
電話・FAX : (011)532-2471
<http://jaaf-sapporo.jp/>